

アセアン現地レポート 【2014年1月号】

平成26年1月24日

三重県アセアンビジネスサポートデスク

株式会社野村総合研究所（NR I）

[タイ] バンコク封鎖

タイでは反政府デモ隊がバンコク都内の7か所を占拠する、いわゆる「バンコク封鎖」が今月13日から続いている。今号では、第一にそのインラック政権と反政府側の主張を、第二に執筆時点（1月20日）での動向を、第三に今後の展望につき、特集する。

第一に、インラック政権と反政府側（野党である民主党のステープ元副首相）の主張をまとめる。インラック政権は国民の審判を仰ぐとして昨年12月に下院を解散し、2月2日に総選挙を実施するとした。この総選挙に対して、民主党は立候補者を立てておらず、特に同党の影響力の強い南部などでは立候補者が存在しない選挙区が出ている。このままでは、選挙後の国会を有効にする最低出席数を確保できないとして、選挙管理委員会は選挙の延期を求めている。インラック政権は民主党が応じれば選挙の延期も選択肢の一つとしている。しかし、民主党、特にデモ隊の先頭にたつステープ元副首相は選挙自体に反対し、暫定的に各界の代表からなる国民会議で国家を運営すべきと主張している。この背景には、過去数度の総選挙で民主党が一度も勝てなかったことがある。よって、両者の主張は平行線であり、妥協点は見つかっていない。

第二に、執筆時点での最新状況をまとめる（1月20日現在）。デモ隊はバンコク都内の主要7か所の大通りや交差点を占拠する、いわゆる「バンコク封鎖」を1月13日から続けている。初日は10万人規模の参加者があったが、日が経つにつれ参加者は減ってきている。一方で、殺傷事件は増加している。バンコク封鎖が始まって最初の1週間だけで、デモ隊や野党幹部宅などに手榴弾が数回投げ込まれ、死傷者は100人近くになっている。大通りや交差点の占拠のため、都心の道路では車やバスが通行できない個所が多数で、通勤や通学にも支障がでている（高架鉄道と地下鉄は現在のところ通常運行）。経済活動では、来訪者が減少し、また安全のため都心の商業施設が早期に閉店するなど、観光業と小売業にデモの影響がでている。しかし、もとより都心に立地しない製造業や物流業などへの影響は僅少で、日系企業の事業活動への影響も軽微である（都心のホテルや商業施設を除く）。

第三に、今後の展望をまとめる。インラック政権と反政府デモ隊の主張は相容れず、こう着状態にある。こうした中、爆発などの暴力事件も頻発するようになってきており、事態は長期化かつ深刻化すると見込まれる。タイに進出した日系企業としてできることは、事態が急変しても対応できるように、常に情報収集しつつ複数の対応策を準備しておくこと

だろう。参考までに、日本大使館とジェトロの本件に関する情報提供サイトは以下の通り。

在タイ日本国大使館「タイ国内政治情勢（デモ等の状況）」

http://www.th.emb-japan.go.jp/jp/news/index_josei.htm

ジェトロ「特集：タイ政治情勢に関する情報」

<http://www.jetro.go.jp/world/asia/th/demo/>

[タイ] バンコクでのクールジャパン催事

1月9日～14日、バンコク都心の商業施設「サイアム・ディスカバリー」にて経済産業省事業でクールジャパン催事が行われた。同催事には三重県が後援し、三重ブランド認定品を含む14社からの協賛品が景品として提供された。来場者は1万人を超え（主催者発表）、三重県の忍者コスチュームなどが人気を博した。